

H30学力向上アクションプラン(宇佐市)

目標及び指標

- 【目標】
- ①全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査における全国平均正答率・偏差値50を上回る学校数を増加させる。
 - ②低学力層の児童・生徒の割合を減少させるとともに、各層においても正答率度数分布を、右寄りに伸ばす。(特に算数・数学活用において全ての層で伸ばす)

達成指標

- 全国学力・学習状況調査において、全ての教科で全国平均正答率を上回る。
- 大分県学力定着状況調査の全ての教科(知識・活用)で偏差値50を上回る
- 全国学力学習状況調査の算数・数学活用において、平均正答率30%以下の児童生徒の割合…小学校20%以下(H29…25%)、中学校18%以下(H29…22%)にする
- 家庭学習1時間以上(平日)
 - 小6…70%以上
 - 中3…80%以上
 テレビ視聴時間2時間以上(平日)
 - 小6…60%以下
 - 中3…50%以下

取組指標

- 全国学力学習状況調査・大分県学力定着状況調査を実際に解き、指導の改善に役立てた教員…100%
- 生徒による授業評価を実施し、授業改善に反映した教員…100%
- 「C層の児童・生徒に対する具体的な手立てを年間を通じて講じた教職員」…100%
- 各校の学校運営協議会制度やブロック別の連携会議で家庭学習・メディアコントロールについて現状から方策を提起し、保護者・地域と連携した具体的取組を推進する学校…100%

行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
- 日々の授業における「生徒指導の三機能」を意識した授業実践と認め合える学級集団づくりの連動(生徒指導につながる授業改善)
 - 小規模校において個人カルテをもとにした授業改善と学力保障
 - (市費)多人数学級支援教員の配置によるきめ細かい指導の充実
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
- 習熟の程度に応じた指導の充実
 - ・ 習熟度別指導推進教員の公開授業による授業モデルの提起と各校における推進
 - ・ (市費)習熟度別学習指導教員(中学校)の配置による習熟度別指導の充実
 - 近隣合同教科部会のさらなる充実
 - ・ 合同教科部会(北部中・西部中)(駅川中・宇佐中・長洲中)(安心院中・院内中)における授業改善の充実(各教科定期テスト等から課題を明らかにし、対策を講じる)
 - ・ 合同教科部会の月行事への位置づけ
 - 生徒による授業評価
 - ・ 評価項目、回数等の短期スパンでの見直し
 - ・ 評価結果の全体への共有と活用
 - タテ持ち
 - ・ 教科教員複数名の中学校でのタテ持ちの実施
 - ・ 教科部会の日課表への位置づけによる計画的な開催と協議内容の充実
- ③新学習指導要領の実施に関して
- 新教育課程説明会、教務主任会、各教科部会、校内研修等により新学習指導要領の内容についての周知徹底を図る。
 - 小学校英語科・外国語活動について、教育課程作成を通じて、3・4年、5・6年、中学校の系統的につかむための研修の実施し、部会と連携した実践・検証を行う。
 - 「総則」「特別活動」「道徳」「総合的な学習の時間」について、各部会と連携した実践・検証を行う。
 - コミュニティ・スクールを全ての小中学校で実施することにより、地域とともにある学校づくりのための組織体制の確立と協議内容等の決定をする。